



学校支援本部だより

師走に入り、あわただしい毎日が続いております。学校支援本部主催の道徳授業公開講座も、4回目の開催となりました。今回の道徳授業は、「生老病死」をテーマとした「命の授業」でした。

現在、小・中学校では道徳が教科化され、「いのちの教育」は重要性を増してきています。中でも「臓器移植」は、中学校の「特別の教科 道徳」の教科書に、8社中7社で取り上げられるなど、注目を集める題材です。9月10日、東京学芸大学附属国際中等教育学校より、佐藤 毅教諭をお招きし、講演を行っていただきました。佐藤教諭によると、臓器移植は、生と死の両方を取り上げることができ、生徒が自分や家族、法律、医療従事者など社会全体に視野を向けることができる題材であり、高校保健や道徳科で臓器移植を含めた「いのちの授業」を2000年度から実践しています。本校で開催したその日、その合計が10,000人を超えたとのことでした。

講座では、善意で臓器の提供がなければ成り立たない臓器移植の、「臓器を提供する」「臓器を提供しない」「移植を受ける」「移植を受けない」という「4つの権利」が公平・公正に扱われるよう、臓器提供・移植は厳格なルールと手続きに則って行われていることに加え、「まだ決め切れない」生徒の気持ちも尊重できるように紹介。その後、臓器移植に関する具体的な話に移り、家族と話し合う時間を持つ宿題を出して自らの役割を締めくくり、事後学習につなげました。「この授業に正解はなく、生徒の個々の考え方を大切にを進めることができる。」と、佐藤教諭。生徒が死生観について、考えるきっかけを与えたいとしています。



～佐藤教諭からのメッセージ～

本校に限らず他校へ出向いていのちの授業を行う理由は、小学5・6年生の時の担任の先生の影響です。当時のクラスにはいじめがあり、先生が「いじめはダメ」と何度も指導しても一向にありませんでした。そこで先生は数週間、いのちの授業を行いました。すると自然にいじめはなくなっていました。恩師のように、いのちの授業を通し、いじめが減り、もっと社会がまあるく穏やかになって欲しいと願っているからです。

当日もお伝えしましたが、他者の意見を傾聴したうえで「自分なら・・・」という考えを持ち、家族で話し合う時間を持っていたら幸いです。

なお、昨年よりのコロナ禍において、保護者の皆様には、運動会の観覧禁止や合唱コンクールの来場制限等、ご不便をおかけしております。学校支援本部でも、できる限り支援を行っておりますが、保護者の皆様にお力をお借りしたいことも多々ございます。お便り等でお声かけをいたしますので、今後ともご協力をお願いします。

【教師の感想（一部抜粋）】

・人の「死」というものについて深く、そして自分の死生観について具体的に考える良い機会となりました。人は、人生の中で沢山の選択をして生きていきますが、私もこれから先の“命の選択”について真剣に考えていかなければいけないと思いました。臓器移植の自分の意思表示について、家族で将来のことを考える時間を設けていこうと感じました。一人では生きていけない。周りあっての自分だということをやより強く感じた1時間でした。

・今回の講演を通して臓器移植の現状だけでなく、生きることそのものについても考え直す機会になったと感じています。佐藤先生の「人ではなく命で考えてみよう」という言葉のように、「命を救う」という視点で向き合えば考えやすくなりそうです。これを機に家族で命や臓器提供について話してみようと思います。

・自分が死んだとき、他の誰かのいのちを繋ぐことができたなら、それはとても素晴らしいことだと私は思います。私は今まで意思表示をしたことはありませんでしたが、この機会に自分の意思をしっかりともち、家族と話し合って意思表示をしたいと思いました。それが、YESでもNOでも。

【生徒の感想（一部抜粋）】

<1年生>

・前まで自分が死んでから臓器をあげるかなんて考えなかったし、どちらかというとなげたくないと思っていましたが、今日の話で考えは変わり、生きている人にあげたいと思うようになりました。色々なことを感じられた授業は良かったです。

・命は決まった時に無くなるわけではないけれど最終地点はみな同じだと改めて感じて、死ぬまでに自分の人生を間違いないよう正しい人生を送っていきたい。

・臓器移植に約3億円かかる事にも驚きました。これからもっと安く受けられるようになればいいなと思いました。

<2年生>

・この授業を通して臓器移植について知ることができました。早め早めの決断をした方が良かったと思いました。また、今までは周りの社会に助けられて生きていたことを改めて自覚し、支え合って生きていけるようになりたいと思いました。

・日本は世界と比べて移植を受ける病院の数が少なく、意思表示をしている人も少ないことがわかりました。これから日本でも意思表示をする人が増えて命を救えたらいいなと思いました。

・これまで病気をせず、健康だったけれど、命の大切さを知り、日常生活の中でも命のことを考え、自分が“生かされている”ということに気づくことも大切だなと思いました。

・今まで、いのちについてはあまり考えたことがなかった。「自分はまだ若いから臓器移植は関係ない」と思っていたが、体験者の話を聞いて、身近に感じた。また、実際は年齢など関係なく、自分に目を向ける必要があるなと思いました。

<3年生>

・私は、今まで、死んでも人の役に立てるならと思い、何も考えずに臓器移植をしたいと考えていました。しかし、今日の話聞き臓器移植の大切さとともに、大変さも学びました。確かに両親からしてみれば脳死した子供の体を開くなどしたくないかもしれません。私も両親や妹が脳死してしまったらすぐに決断することはできないと思います。何度も話し合い何度も自分で考え決断しようと思います。

・今まで死んだり、誰かの臓器がたくさんの人を命を救うということ深く考えたり、詳しく耳にしたことがなかったのが今回の道徳はとても新鮮で家族や自分、周りにいる人達などが色々頭に浮かびました。「誰かのためになるなら」という考えが今まであまりよくは思っていなかったけど、今回でその考え方もあるなど前向きに変わりました。

・臓器移植という言葉は知っていたけど、ドナーの人からレシピエントの人につながるまで、いろいろな人のたくさんの思いがあることがわかりました。今回の授業で改めて自分の意志を考えることができました。

【学校支援本部今年度の活動】

- ①学校支援 ・運動会のオンライン配信のお手伝い
・学習支援教室並びに自習室の開設(3学年対象)
- ②地域交流 ・地域の方と生徒達で中庭花壇のひまわりの種蒔きやチューリップ球根の植え付けを行った。